

令和2年度 湯浅町社会福祉協議会 事業報告総括

昨年度は、世界中で蔓延する新型コロナウイルス感染症の影響により社会経済状況が大きく変化し、人々の生活に閉塞感をもたらす状況が続きました。

そのようななか当会の運営は、誰もが安全で安心して暮らせる福祉と人権の守られた町づくりの推進に向け、感染症対策はじめ、各部署の職員が相互の連携を図り、協議を重ねながら円滑に事業を実施できる組織づくりに努めてきました。

ここ数年来、重点的に取り組んでいる社協活動に対する理解の促進については、社協会費収集時期に合わせて全世帯へのパンフレット配布や楽しく社協活動に関心をもってもらえる広報誌を作成するとともに、かいらん等では周知・啓発しきれない情報をホームページやSNSで発信し、多面的に情報提供に努めました。

また、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響でマスクが高騰・品薄になるなか、多くの町民の方々にご協力・ご支援頂きながら「ささえ愛マスク作成事業」を展開し、小中学生や65才以上の高齢者の方々等へ手作りマスクを配布させて頂くことができ、住民同士のささえあう気持ちがより一層芽生えた一年でありました。

相談援助事業では、心配ごと相談を相談業務の核として、弁護士・公証人・介護相談等の相談所運営を始め、福祉サービス利用援助事業や生活困窮者自立支援、生活福祉資金特例貸付相談では県社協や町、民生委員や振興局と連携を密にしながら利用者の課題解決や生活再建に向けて、寄り添う支援はもとより社協の役割を意識した相談業務に取り組みました。

「地域共生社会」の構築に向けて取り組んでいる公益的な事業として、地域の自主的なサロン活動に対する支援事業を実施し、現在9カ所の支え合いの団体が活動し、地域の中で住民同士の支えあいの輪が広がりをみせてくれています。

福祉教育活動では、小学生を対象とした夏のボランティア体験学習の開催、認知症サポーター養成講座や福祉学習での各小学校への出張福祉講座をはじめ、自治区や企業等に対し、幅広い啓発に努めました。

介護事業では、利用者・ご家族の方がより満足いただけるサービスの提供、やすらぎ家族会の開催、満足度アンケートの実施等、社協の介護事業としての視点を意識した業務に努めることにより、介護三事業を合わせて社会福祉法人の役割の1つである公益事業への還元を行うことができました。

以上のように、令和2年度も広く住民の皆様に賛同いただける事業を実施できたと考えています。